

2018年度地区協議会事業について

1 地区協議会とは

地区協議会とは、地区の特性と資源をいかして、地区の課題を地区自らが解決し、さらに地区の魅力発信および向上に主体性を持って取り組む組織です。区域は、町田市町内会・自治会連合会の地区連合会の組織単位を基盤としており、2019年3月5日には、市内10番目の地区協議会として高ヶ坂・成瀬地区協議会が発足し、市内全地区に地区協議会が設置されました。

構成団体としては、町田市町内会・自治会連合会の地区連合会、町田市青少年健全育成地区委員会、町田市民生委員児童委員協議会の参加が必要です。その他の構成団体は、小・中学校や大学、社会福祉法人や消防団など、各地区協議会によって異なります。



【鶴川災害対策会議事業】

鶴川地区協議会



【地域交流事業】

南地区協議会



【子どもの見守り事業】

町田第二地区協議会

2 地区協議会への支援

地区協議会は、地区の課題解決に取り組むネットワーク組織として、地区の中核を担う役割が期待されています。市は地区協議会与連携・協力しながらよりよい地域社会づくりを推進していくと共に、その活動の魅力や効果を積極的に発信するなどの支援を行っています。

地域予算の交付	活動場所の確保	担当職員の配置
課題解決や魅力発信を目的とした事業に対し、「地域予算」として100万円を限度とした補助金を、地区協議会に対して交付しています。	地区協議会や構成団体の活動拠点となり、会議や事業に使用することができる「地域活動室」を市民センターなどに設置しています。	地区協議会の運営や活動を支援するとともに、行政とのパイプ役を担う市職員として「地域おうえんコーディネーター」を配置しています。

『魅せる化』の推進

町田市ホームページに地区協議会の活動について掲載し、情報発信を図ると共に、事業への参加・協力等呼びかけています。また、2019年1月26日には、市民フォーラムにて「地区協議会活動報告会」を開催し、各地区協議会の特色ある1年間の活動を133名の来場者の前で発表しました。当日は、報告会の盛況の様子をFacebookでライブ配信しました。動画は、以下からご覧いただけます。



【活動報告会の様子】

【町田市ホームページトップページ>コミュニティ>市民活動・NPO>地区協議会>地区協議会ビデオ】

3 2018年度各地区協議会の事業（補助金対象事業のみ）

地区協議会名	相原地区協議会		
実施事業	「相原歴史研究事業」「大学との連携事業（竹カフェ）」ほか7事業		
補助金	805,255 円	スタッフ数	延べ 120 名

地区協議会名	小山・小山ヶ丘地区ネットワーク協議会		
実施事業	「オープンガーデン広報事業」「安心安全な街づくり事業」ほか2事業		
補助金	1,000,000 円	スタッフ数	延べ 272 名

地区協議会名	木曽地区協議会		
実施事業	「地域活性交流事業（木曽地区の歴史スタンプラリーなど）」ほか4事業		
補助金	586,921 円	スタッフ数	延べ 80 名

地区協議会名	忠生地区協議会		
実施事業	「広報事業」「交流親睦事業（忠生子どもフェスティバル）」		
補助金	932,492 円	スタッフ数	延べ 90 名

地区協議会名	玉川学園・南大谷地区協議会		
実施事業	「玉川学園盆踊りの復活事業」「玉南子ども食堂事業」ほか7事業		
補助金	729,628 円	スタッフ数	延べ 285 名

地区協議会名	鶴川地区協議会		
実施事業	「鶴川 de ハロウィンウォーキング事業」「鶴川災害対策会議事業」ほか4事業		
補助金	1,000,000 円	スタッフ数	延べ 400 名

地区協議会名	原町田地区協議会		
実施事業	「地域住民との対話事業（住民ワークショップ）」「地域交流事業」ほか1事業		
補助金	504,671 円	スタッフ数	延べ 124 名

地区協議会名	町田第二地区協議会		
実施事業	「防災防犯事業」「高齢者の見守り事業（特殊詐欺研修会）」ほか1事業		
補助金	399,853 円	スタッフ数	延べ 170 名

地区協議会名	南地区協議会		
実施事業	「地域交流事業（南地区福祉フェア）」「地域交流事業（南カフェ）」ほか3事業		
補助金	960,462 円	スタッフ数	延べ 293 名

【全地区合計】 補助金：6,919,282 円 スタッフ数：延べ 1,834 名

2018 年度
地区協議会
活動報告会

2019 年 1 月 26 日(土)12:30～15:00

町田市民フォーラム 3F ホール





もくじ

1. 地区協議会について	4
・「協働」の定義	
・地区協議会とは？	
・「町田市地域経営ビジョン2030」	
・町田市の地区協議会への支援	
・地域おうえんコーディネーターとは	
2. 各地区協議会の紹介	6
(1) 相原地区協議会	
(2) ONW 協議会 小山・小山ヶ丘地区ネットワーク協議会	
(3) 木曽地区協議会	
(4) 忠生地区協議会	
(5) 玉川学園・南大谷地区協議会	
(6) 鶴川地区協議会	
(7) 原町田地区協議会	
(8) 町田第二地区協議会	
(9) 南地区協議会	



地区協議会について

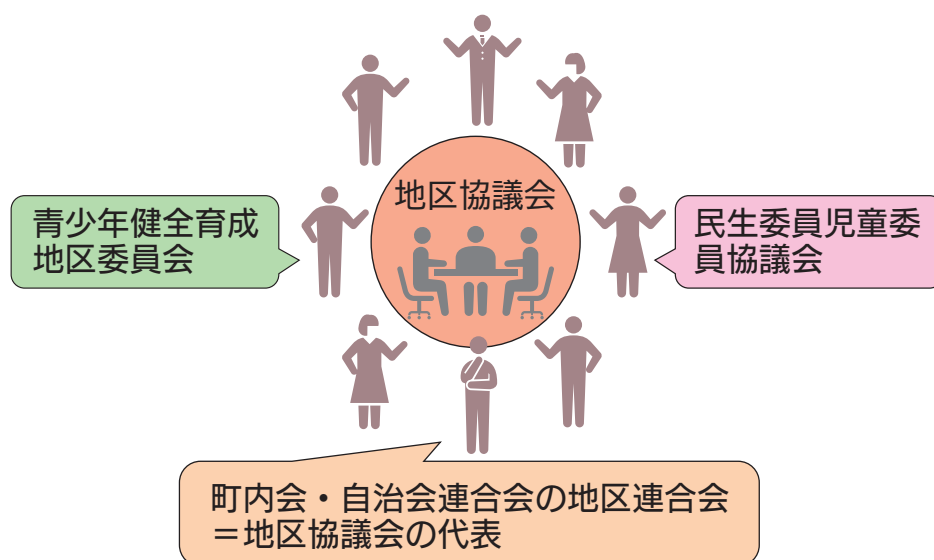
協働の定義

協働とは、地域の多様な主体がお互いを尊重しながら、共通の目的を達成するために協力して活動することです。市では防災、環境、福祉など、各分野の所管課が各分野の協働のパートナーとともに、分野別の課題解決に向けた取組みを進めてきました。しかし、時代の変化と共に社会のニーズが多様化した今、地区で活動する団体間で地区の課題を共有し、協力して課題解決に向けた取組みを行うことが必要となってきました。

そこで、市では2013年12月に「町田市『協働による地域社会づくり』推進計画」を策定しました。この計画に基づき、地域団体、市民、市が多角的重層的に協働していくための仕組みづくりとして、地区協議会を設立し、連携しながら課題解決に取り組んでいます。

地区協議会とは？

地区協議会とは、地区の特性と資源をいかして、地区の課題を地区自らが解決し、さらに地区の魅力発信および向上に主体性を持って取り組む組織です。市内全域にわたって組織され、地域社会を支えている町田市町内会・自治会連合会の地区連合会、町田市青少年健全育成地区委員会、町田市民生委員児童委員協議会の参加が必要になります。その他の組織メンバーは各地区協議会で異なっており、小・中学校や高校、大学、社会福祉法人、消防団など、様々な団体が参加・協力しています。





町田市地域経営ビジョン 2030

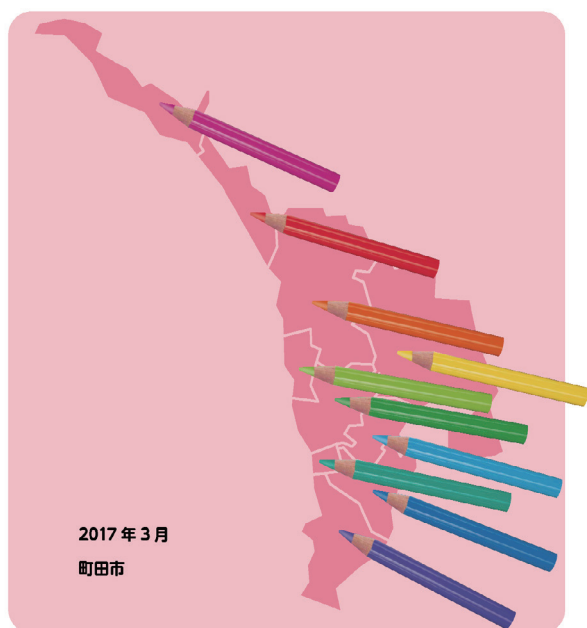
市では2013年12月に策定した「町田市『協働による地域社会づくり』推進計画」の後継計画として、2017年3月に、「町田市地域経営ビジョン2030」を策定しました。地区協議会をはじめとする多様な主体が力を合わせ、地域資源を活用して未来へと続く地域をつくりあげていくことを「地域経営」と定義し、未来のビジョンを共有しながら、地域社会づくりの推進を目指しています。

町田市の地区協議会への支援

地区協議会は、地区の課題解決に取り組むネットワーク組織として、地区の中核を担う役割が期待されています。そのためには、活動に関わる人や地域団体が増えていく必要があります。市では、活動場所の提供や地域予算の交付、地域おうえんコーディネーターによる人的支援など、地区協議会と連携・協力しながらよりよい地域社会づくりを推進していくと共に、地区協議会の活動の魅力や効果を積極的に発信し、支援しています。

町田市 地域経営ビジョン2030

～協働による地域社会づくり推進計画～



地域おうえんコーディネーターとは

各地区協議会の運営や活動を応援している市職員です。行政と地区協議会のパイプ役を担っているほか、地域活動に関する相談対応など、様々な場面で地域と連携し、活躍しています。



構成団体：12 団体

相原地区協議会

区域：相原町

2018 年度 主な取り組み

広報・広聴事業

住民の生きがいづくり事業

(ガラスフュージング千の花事業、相原地区ファミリースポーツ普及事業、おしゃべりクッキング事業、小さい人形劇事業)

地域活性化事業

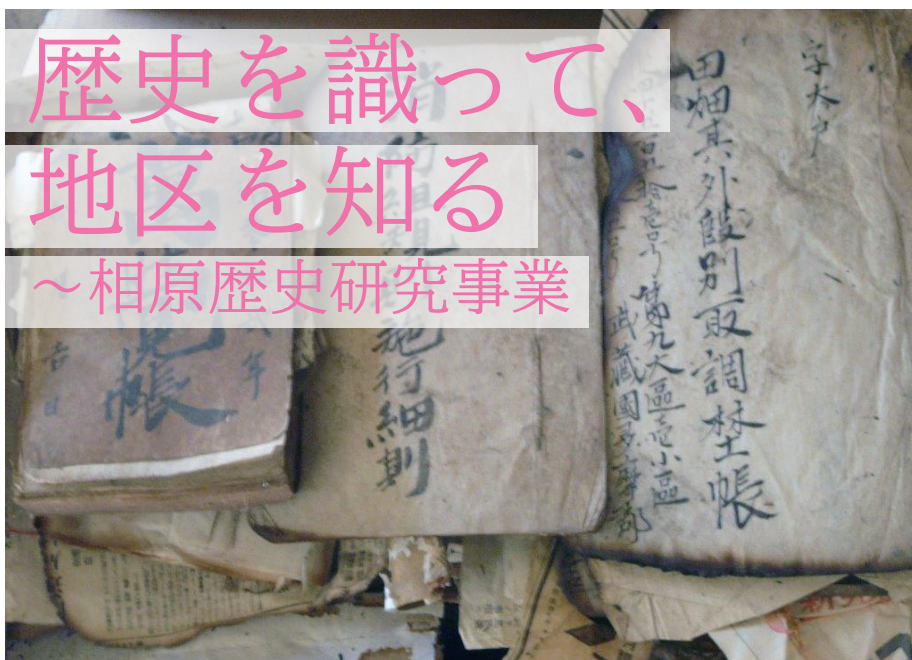
(真米の環境整備事業、相原にぎわい創生事業、相原歴史研究事業)

大学との連携事業

(相原想いの竹カフェ事業)

歴史を識って、 地区を知る

～相原歴史研究事業



相原地区協議会は、相原地区内で活動している団体を応援することで、地区全体の活性化を図っています。その一つ「相原歴史研究事業」では、相原地区の歴史資料を様々な形で収集し、歴史という視点で、地区の魅力を後世に伝える活動をしています。

活動を始めたきっかけ

相原地区には様々な歴史資産や、それにまつわるエピソードが残っていますが、世代交代や新しい住民が増えたことにより、それらを知る人が少なくなっているという現状がありました。

そこで、「相原歴史研究会」では改めて相原地区の歴史を調査し、住民に伝えていくことで、地区への愛着を持ってもらう取り組みを始めました。

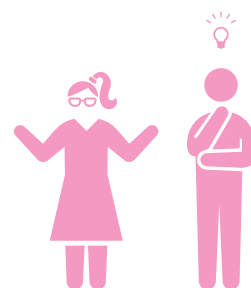
「歴史文化調査報告書」の作成

古文書の解析や住民の聞き取り調査を行いながら、地区協議会から支援を受け、昔の相原の姿をまとめた「歴史文化調査報告書」を作成。小学校、老人ホーム、金融機関、図書館、農協などに配布し、地区の人たちに見てもらえるようにしました。

昔の相原のことを知ることができると、高齢者の方をはじめ、幅広い世代から好評をいただいています。

これからの展望

地区協議会の構成団体とも連携することで、様々なところから情報が集まってきています。今後も活動の幅を広げ、子ども達にも相原の歴史を伝えていくような活動を行っていきたいと考えています。



構成団体：17団体

ONW 協議会

小山・小山ヶ丘地区 ネットワーク協議会

区域：小山ヶ丘、小山町

2018年度 主な取り組み

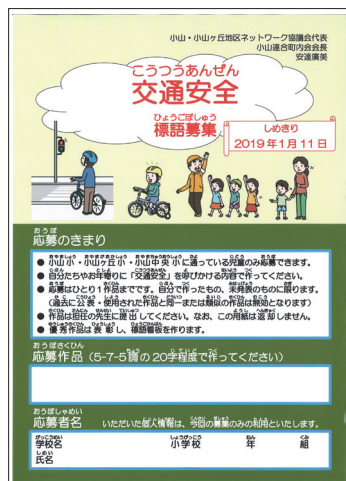
広報事業

ふれあいを深める事業

(ふれあいウォーキング)

オープンガーデン広報事業

安全・安心な街づくり事業



多角的な
視点で
安全・安心な
街づくり



小山・小山ヶ丘地区では、100名以上の見守り隊が、下校時に子どもの見守りを行っています。
小学校と連携して時間割を共有することで、無駄のない活動を行うことができます。

子どもの見守り

見守り活動は、地区内の町内会・自治会、ボランティア有志の方がそれぞれでルールを決めて実施しています。そのため、小山・小山ヶ丘地区ネットワーク協議会では、地区全体でルールの統一などは行わず、オレンジ色の防犯ベストや横断旗を配布し、活動をバックアップしています。同じベストを着用することで一体感が生まれ、子ども達にとっても「このベストを着ている人は安全」という目印になります。小学校などを通して参加の呼びかけをし、「参加したい」という声も出てきました。

標語募集

地区内には200枚以上の防犯標語の看板が設置されていますが、大人の目線で作られたものでした。そこで、子ども達の目線の標語をつくるため、地区内にある小学校3校では「交通安全」を、中学校1校では「防犯」をテーマに、新しい標語を募集しました。構成団体である青少年健全育成小山地区委員会や小中学校の働きかけによりスムーズに実施ができ、たくさんの標語が集まりました。集まった標語のうち20枚を選び、アクリル板にして地区内に新

しく設置します。今後もこの標語は、増やしていく予定です。



構成団体：16団体

木曽地区協議会

区域：木曽西、木曽東、
木曽町

2018 年度 主な取り組み

広報広聴事業
地域活性交流事業
(木曽の歴史スタンプラリー、V
R・ARによる防災訓練、防災に
関する視察研修、避難施設開設
訓練の支援)

木曽の歴史スタンプラリー
スタンプを5個以上集めて賞品をもらおう!!
加の公園の、どちらからスタートしても、どちらへゴールしてもかまいません

マール公園 境川田バス停横 43 号線寄り	上宿ふれあい公園
--------------------------	----------

下記の各場所に行きスタンプを5個以上集めて、上記公園へ11時までに、この用紙を持って来てください。

秋葉神社①	金刀比羅神社②	八坂神社③	一本松(富士塚)⑧
淡島神社④	伝重寺⑤	木曽観音堂⑥	一里塚⑦
			六道の辻⑨
			道祖神⑩
			数軒八幡宮⑪
			龍徳寺⑫

様々な形でつくる、
地域交流の
きっかけを



木曽地区協議会は「地域交流を広げ、老若男女、全ての世代間の垣根をなくすこと」を目指しながら様々な事業を行っています。

防災訓練

防災訓練では、木曽境川小学校でバーチャル・リアリティ等の機械を用いた疑似体験講習と講演会を開催。小学生や地域の住民など幅広い人々が参加し、交流を促進し、共に防災意識を高める結果となりました。

視察研修

視察研修では、役員をはじめ構成団体所属員が防災の知識を深め、今後の事業に活かすため、気象庁や総務省を見学しました。40名が参加し、様々な視点から関係先

と意見交換を行うことで、地域防災についての考えが深まる機会になりました。

スタンプラリー

スタンプラリーは、地区の住民全体での交流促進を狙いとした企画。青少年健全育成地区委員会の取り組みをベースにしたもので、今回が2回目の開催です。

木曽地区の神社仏閣などを巡り、その歴史などを学べるマップを作成。外国人家族の参加があったり、偶然居合わせた子どもと高齢者が一緒に回るようになったりと、様々な形で出会いが生まれました。

今後の展望

話し合いの場では、役員全員がとてもポジティブ。アイデアを出すと前向きに検討できる空気ができているので、とてもいい形で事業づくりができています。今後も、新しい要素も加えながら、より交流を深めていきたいと考えています。



構成団体：27団体

忠生地区協議会

区域：小山田桜台、上小山田町、下小山田町、図師町忠生、常盤町、根岸、根岸町、矢部町、山崎、山崎町

2018年度主な取り組み

広報事業

交流親睦事業

(忠生子どもフェスティバル)

手伝い合える
関係づくりで、
事業をもっと
いいものに



忠生地区協議会は、全構成団体が集まる連絡会を年3回開催して、構成団体同士で情報を共有し、それぞれの活動に連携・協力し合える関係づくりを進めています。

「忠生子どもフェスティバル」

秋には、交流親睦事業として、地域子ども達が日頃の習い事などの成果を発表する「忠生子どもフェスティバル」を実施しました。役員以外にも、若い子育て世代なども巻き込んだ実行委員会を組織し、企画には子育て世代の人達からの意見も多く反映しました。

にぎわいを生み出す工夫

フェスティバルでは、地区の団体のPRコーナーや物販コーナーも設置。団体同士で協力し合い、

様々な人達が交流する機会を増やした結果、600名以上の来場者が訪れる大変盛況なイベントになりました。子ども達にとっても、自分たちが住んでいる場所で大勢の人を前に発表することは、大きな励みになっています。今後も工夫しながら、続けていきたいと考えています。



その他の取り組み

その他、桜美林の学園祭や、子どもマラソンなど地区で開催されているイベントを応援しながら、地区協議会のPR活動を行っています。桜美林の学園祭では、高齢者支援センターが中心となって、認知症カフェも開催。周知が進み、「またきました」と言ってくださる方も増えました。今後も、手伝い合える関係づくりを進めながら、忠生地区のネットワークを広げていきます。

構成団体：27団体

玉川学園 南大谷 地区協議会

区域：玉川学園、東玉川学園、
南大谷

2018年度 主な取り組み

子どもが遊べる広場事業
地域玉ちゃんサービス事業
空き家・空き部屋・お庭活用事業
まちの魅力・時層マップ事業
広報事業
玉南まちカフェ事業
はなびら市・地域交流事業
玉川学園盆踊りの復活事業
玉南子ども食堂事業
(おむすび食堂)

子どもの成長を 見守る 多世代交流拠点 ～おむすび食堂



玉川学園・南大谷地区協議会は、事業を広く募集し、その活動を支援しています。2018年度は9事業の応援をしており、今年度新規事業のひとつが、地区で運営している子ども食堂「おむすび食堂」です。

「おむすび食堂」とは？

「おむすび食堂」は、地域全体で子どもを育てたいという思いがあるお母さん達が絆を結び合って始めた子ども食堂です。地区協議会はチラシやホームページなどを通じて情報を発信し、活動のバックアップを行っています。

運営の工夫

沢山の子供達に参加してもらえよう、運営には様々な工夫をしています。地区の小学校に、チラシを配布。また、企業と協力すること

で、提供できるメニューも充実しました。また、今年度復活した「玉川音頭」の紹介など、食事以外にも様々なレクリエーションを取り入れることで、子どもから大人まで楽しめる空間づくりをしています。開催場所を高齢者支援センターにした時には、高齢者と子ども達が交流する場ができました。玉川大学の先生や学生の参加もあるなど、少しずつ輪が広がっています。

これからの活動

取り組みを通して、街には善意が溢れていると実感しています。現在は月に1～2回の開催ですが、今後さらに回数を増やしていきたいと考えています。子育てを始めとした助け合いの仕組みをつくるため、他の団体や企業とも連携を深めながら、取り組みを続けていきます。



構成団体：50団体

鶴川地区協議会

区域：大蔵町、小野路町、
金井、金井町、真光寺、
真光寺町、鶴川、能ヶ谷、
野津田町、広袴、広袴町、
三輪町、三輪緑山、薬師台

2018年度 主な取り組み

広報広聴事業
鶴川地域活動フェスタ事業
鶴川くらしの総合相談事業
鶴川de ハロウィンウォーキング事業
鶴川災害対策会議事業
鶴川見守りあいさつ運動事業
地域活性化事業
(フードバンク・学習支援・子ども食堂
の運営、子どもからシルバー世代まで
みんなで歌う参加型音楽祭の開催、囲
碁将棋を通じて支え合うネットワークづ
くり、鶴川団地買い物支援、柿の木文庫、
三輪炭焼き竹林プロジェクト)

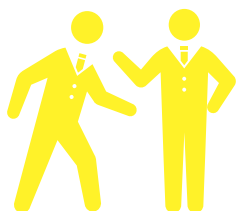


団体の力を集めて、
効果的な取り組みを

振り込め詐欺などの特殊詐欺は、町田市でも多くの被害を出しています。また、高齢者が被害に遭うだけではなく、中学生が受け子という形で事件に巻き込まれているという現実があります。

町田警察と連携

そこで、鶴川地区協議会では、団体間のつながりを活かして、構成団体や企業、町田警察と「鶴川地区特殊詐欺被害防止委員会」を設立したほか、10月18日に鶴川地区協議会と町田警察で「特殊詐欺被害防止に関する共同宣言式」を実施するなど、「特殊詐欺対策」に力を入れてきました。



構成団体の取り組み

町内会・自治会連合会は、回覧等を通して、広く住民に特殊詐欺に関する注意喚起を実施。民生委員・児童委員協議会は高齢者の自宅を訪問し、特殊詐欺の防止策などを伝えています。青少年健全育成地区委員会では中学校と連携して、町田警察署による特殊詐欺被害の現状に関する防犯講話を行い、企業は啓発活動やチラシ配布、訪問販売の際の見回りなどで協力しています。

今後の活動

地区全体で大きな課題を共有し、それぞれの団体が得意な分野で連携・協力し合うことで、効果的な取り組みにつながっていると感じています。これは、多様な団体に関わる地区協議会でなければ、実施できないことでした。今後も、コンビニや無人ATMなどの見回りや、若者を対象にした講座の拡充など、様々な形で防犯対策に取り組んでいきます。

構成団体：11団体

原町田地区 協議会

区域：原町田

2018年度 主な取り組み

地域住民との対話事業

(住民ワークショップ)

地域交流事業(ふれあいまつり)

広報広聴事業

子どもの見守り事業

お年寄りの見守り事業

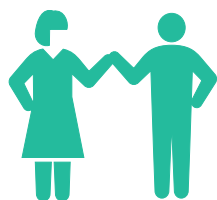
工夫を
こらした
交流の
きっかけ
づくり



「原町田ふれあいまつり」は、地区内の団体が集まり、カレーづくりやブースの出展などを通して、団体間や住民同士の交流を深めるイベントです。

「原町田ふれあいまつり」とは

「原町田ふれあいまつり」は、2014年まで子どもを対象として青少年健全育成地区委員会が実施していました。現在は、地区協議会の事業と位置づけ、対象を全ての世代に拡大し、各団体が連携して取り組んでいます。



開催するための工夫

今年度は、会場である町田第二小学校の校庭が使用できず、体育館のみでの開催となりました。限られたスペースではありましたが、地区の様々な活動団体へ参加を呼びかけ、多種多様なブースが出展されました。また、参加者が1日中楽しめるように、ブースの配置や舞台発表の内容などを工夫しました。運営面でも、準備、進行、会場警備に構成団体が協力し、円滑に進めることができました。

今後の展望

今年度の実施にあたり、「子どもからおじいちゃん、おばあちゃんまで、様々な年代の人に来場してもらう」ことを目標としていましたが、来場者の多くは、子どもとその親世代でした。今後、さらに上の世代も参加できるように、内容等に工夫を加え、多世代が交流できる事業にしていきたいと考えています。

構成団体：21団体

町田第二地区 協議会

区域：旭町、中町、本町田、森野

2018年度 主な取り組み

連携促進事業

防災防犯事業

子どもの見守り事業

高齢者の見守り事業

様々な形で 広がる 見守りの輪



町田第二地区協議会では、「子どもの見守り事業」に取り組むべき3つの柱の一つに掲げています。

見守り活動の現状

登校時の見守り活動には町内会・自治会の約4割が取り組んでいます。下校時の見守り活動を行っているのは約2割となっています。登校時に比べ、下校時の見守り体制は十分とは言えない状況です。

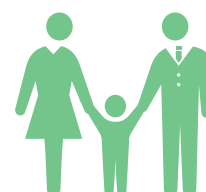
児童の下校時間は、学年やクラスにより大きなひらきがあり、見守り活動が難しい状況です。一方、子どもに関係する事件・事故の多くは下校時間帯に発生しており、午後の見守り体制を強化する必要があります。

下校時のいっせい見守り

地区が一体となった下校時の見守り体制を構築していくため、初めて夕方時間帯でいっせい見守りを実施しました。交差点まで遠い人にも「ながら見守り」をお願いしました。また、見守り活動に着用するベスト、腕章、帽子などの他、新たに見守りカード（名札）を作成・配布し、気軽に参加できるよう工夫しました。更に、下校時の見守りは、交通安全の確保だけでなく「防犯」効果も大きいことから、防犯パトロールも合わせて行いました。

今後の取り組み

午後の時間帯での参加者をどう確保していくのか、見守り方法（形態）をどうしたら多くの人に参加してもらえるかなど、まだまだ課題は残っています。今後も、下校時の見守り活動の必要性・重要性を地域住民へ伝え、下校時の見守り体制を構築していきます。



構成団体：25団体

南地区協議会

区域：小川、金森、金森東
つくし野、鶴間、成瀬が丘、
南つくし野、南町田

2018年度 主な取り組み

地域の見守り事業（福祉フェア）

地域交流事業（南カフェ）

子どもの見守り事業

（子どもの一斉見守り）

広報広聴事業



南地区協議会は、地区全体で様々な角度から検討を重ね、「福祉フェア」や「南カフェ」、「子どもの一斉見守り」などの事業を実施してきました。

見て、聞いて、試して・福祉フェア

「福祉フェア」は福祉をテーマにしたイベントで、高齢者、子ども、障がい者など、福祉のそれぞれの分野で活動する団体が集まり、活動の紹介を行いました。来場者が福祉機器などを体験し、講演に参加しました。このように福祉という大きな括りで開催されるイベントは珍しく、多くの人から注目されました。

いいことあったよ「南カフェ」

「南カフェ」では、地区で活動する団体が南市民センターに集まり、

活動の発表や来場者との交流を行いました。団体間でも新たな出会いやつながりが生まれ、南地区がより活気づくようなイベントになりました。

小学生通学路の「一斉見守り」

子どもの登校時に地区内の全小学校の通学路で実施した一斉見守りでは、200名以上の方の参加がありました。多くの大人が子ども達を見守ることで、交通安全だけではなく、地区全体の防犯活動にもつながりました。

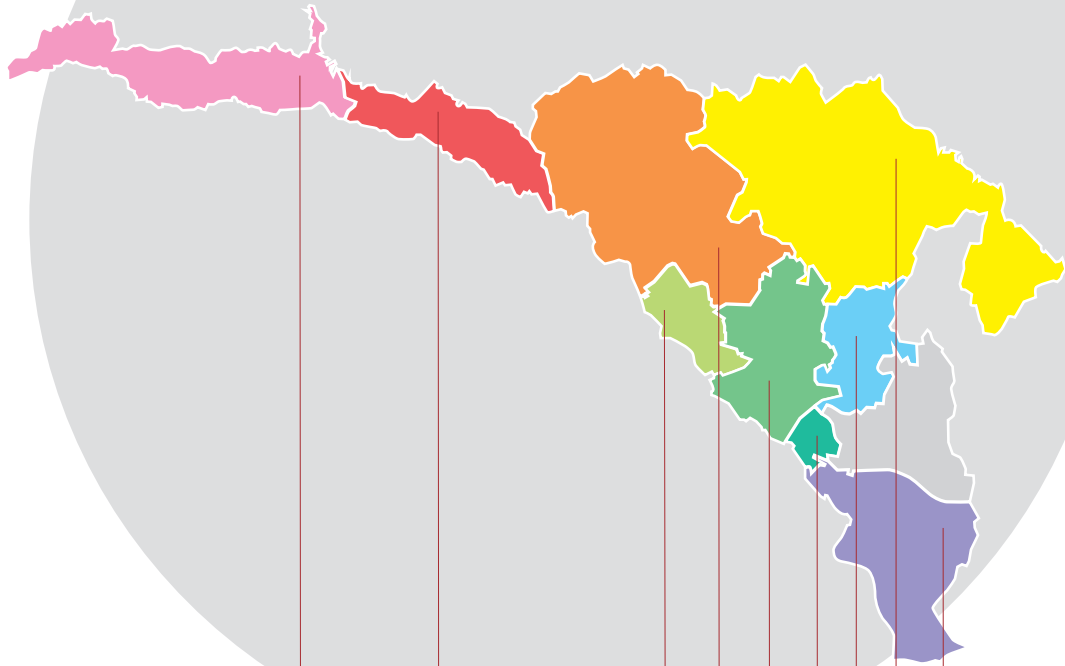
今後の展望

いずれの事業も、構成団体以外にも多くの関係団体を巻き込み、対話の中で様々なアイデアを取り入れ工夫したことで、よりよいものになったのだと考えています。

開催案内のチラシを見たことで、「自分も活動に参加したい」と申し出てくれる人もいました。今後も事業を通して、南地区全体のつながりを増やしていきます。



地区協議会の区域



- 相原地区協議会
- ONW 協議会
(小山・小山ヶ丘地区ネットワーク協議会)
- 木曽地区協議会
- 忠生地区協議会
- 玉川学園・南大谷地区協議会
- 鶴川地区協議会
- 原町田地区協議会
- 町田第二地区協議会
- 南地区協議会



発行：2019年1月26日
町田市市民部市民協働推進課
042 - 724 - 4362(直通)



この冊子は400部作成し、1部あたりの単価は188円です（職員人件費を含みます）

2018年(平成30年)

8/15号

第1890号

発行日/毎月2回(1日、15日)

まちだ
広報

まちだ

まちづくり
基本目標

- 将来を担う人が育つまちをつくる
- 安心して生活できるまちをつくる
- 賑わいのあるまちをつくる
- 暮らしやすいまちをつくる

発行 ● 町田市 編集 ● 政策経営部広報課
〒194-8520 東京都町田市森野2-2-22
市役所の代表電話 ● 042・722・3111
市役所の窓口受付時間 ● 午前8時30分～午後5時
ホームページ ● <http://www.city.machida.tokyo.jp/>

町田市
ホームページ
QRコード



今号の紙面から ● 別刷 産業特集 360度まちだの魅力、発信中。

地域の

いいことさがしを
はじめよう

いま

地区協議会



私たちが小山・小山ヶ丘地区に住んで十数年が経ちます。知り合いが増え地域にもなじみ、日々安心して過ごしています。そして今では、自分たちの経験や得意なことを生かし、地域の役に立てないかとの思いから、小山・小山ヶ丘地区ネットワーク協議会の運営スタッフとして活動しています。

私たちの地域では子育て世代が増えていますが、子どもたちの居場所が少ないことや、地域のコミュニティーに参加する若い方たちが少ないことなどが気になっています。地区協議会での活動を通して、住民同士の懸け橋となり、気軽に交流する機会を作りたいと考えています。皆さんも一緒に地域のいいことさがしをはじめませんか。



小山・小山ヶ丘地区ネットワーク協議会
光岡夏子さん

小山・小山ヶ丘地区ネットワーク協議会
田中亜矢子さん

市民協働推進課 ☎ 724・4362

2面へ続く

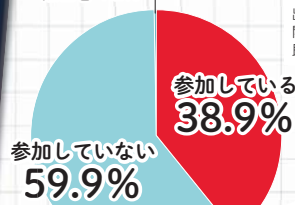
地区協議会 地域の「いま」 いいことさがしをはじめよう

地区協議会 をご存じですか？

地区の課題を解決し、地区の魅力をアップするために、さまざまな団体が集まって知恵を出し合い、協力しながら取り組む組織が、地区協議会です。市内9地区に地区協議会があり、それぞれの地区で特色ある取り組みを行っています。

Machida City's Data
あなたは地域活動に参加していますか？

無回答 1.2%



出典：町田市の地域活動に関する住民意識の状況（市民意識調査2017より）

町田市で地域活動に参加する人って、50歳以上がほとんどらしいわ

町内会・自治会への加入率も年々減っているそうよ



Interview

一歩踏み出したら、
たくさんの出会いが待っていました

田中さんと光岡さんは、小山・小山ヶ丘地区ネットワーク協議会の事務局で庶務や会計、事業のサポートに携わっています。同協議会に関わるようになり、多くの人たちとの新たなつながりが生まれ、人の輪がどんどん広がっているそうです。2人に、地域での取り組みについて伺いました。

●同協議会に携わることに
なったきっかけ

田中さん(T)：私は仕事柄パソコンが得意だったため、協議会の事務局としてお手伝いをしてほしいと頼まれたのがきっかけでした。

光岡さん(M)：私は青少年健全育成小山地区

区委員会の事務局を務めていた経験がかわれ、知人から声がかかりました。

●小山・小山ヶ丘地区の
地域づくり

T：小山・小山ヶ丘地区は、昔から住んでいる人たちと、新しく住み始めた人たちが混在している地区。考え方などに違いが出ることもありますが、その度に対話を重ね、意見やアイデアを出し合い、一緒になって地域づくりを行っています。

M：協議会に関わり、以前からこの地区に住んでいる方たちとの交流を通して、地区全体を深く知ることができて愛着が湧くようになりました。

●地区協議会の取り組み

T：協議会では、「オープンガーデン」や「ふれあいウォーキング」などの事業を行っています。「オープンガーデン」では、地区内で自慢の花壇を一定の期間、一般公開していただき、花や緑を通じて交流を深めています。

M：「ふれあいウォーキング」では、近隣の学校にも協力していただき、子どもから大人まで住民みんなでふれあいを深められるよう工夫しています。田中さんと私も企画から関わっているのですが、たくさんのお子もたちの笑顔を見ると、とても嬉しくなります。世代を超えた交流も生まれています。

市内9地区にある地区協議会の取り組みをちょっぴりご紹介します！

●地区協議会に関するお問い合わせは
市民協働推進課(☎724・4362)へ



地区協議会名	事業名	概要
1 南地区協議会	地域交流事業	地区で活動する団体の活動発表や交流の場「南カフェ」を開催
2 原町田地区協議会	地域住民との対話事業	原町田に住む住民が出会い、対話しながら交流を深める場を提供
3 町田第二地区協議会	防災防犯事業	災害に備え、避難施設の開設運営訓練を実施
4 玉川学園・南大谷地区協議会	子どもが遊べる広場事業	子ども広場等で三角ベースを始めとしたボール遊びを実施
5 木曽地区協議会	地域活性交流事業	地区内の歴史と魅力を知る「木曽の歴史スタンプラリー」を開催
6 忠生地区協議会	交流親睦事業	地区の子どもの活動を発表する「忠生子どもフェスティバル」を開催
7 鶴川地区協議会	くらしの総合相談事業	毎月第3水曜日に、交流事業「3水スマイルラウンジ」を開催
8 小山・小山ヶ丘地区ネットワーク協議会	ふれあいを深める事業	子どもから大人まで、ふれあいを深められる「ふれあいウォーキング」を開催
9 相原地区協議会	相原思いの竹カフェ事業	つながりを深めるため、学生と地区の人たちでワークショップを開催

さまざまな団体や人々と関わることで視野が広がり、仕事面でもプラスになっていると思います。まずは自分の身近なところから、無理のない範囲で関わってみませんか。一歩踏み出すことで新たな人とのつながりが生まれます！

